

様 式 D - 2 - 1

令和3年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）交付申請書

令和3年 4月12日

独立行政法人日本学術振興会理事長 殿

機関番号 1 3 9 0 3

所属 研究 機関	所在地	〒466-8555 愛知県名古屋市昭和区御器所町
	名称	名古屋工業大学
	機関の長	学長・木下 隆利
	経費管理 担当者	経理課・課長・尾崎 澄人
研究 代表者	部局	工学（系）研究科（研究院）
	職	教授
	氏名	林 篤裕

次のとおり研究を実施したいので、科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）の交付を申請します。なお、交付された助成金は、交付条件に従い適正に使用します。

1. 研究種目名 基盤研究(C)（一般） 2. 課題番号 2 1 K 0 2 6 3 0

3. 研究課題名 論理的記述力を涵養するための教育方法確立に関する基礎研究

4. 補助事業期間 令和3年度～ 令和5年度

5. 補助事業期間全体の助成金額（交付予定額） (円)

	直接経費					間接経費	合計
	物品費	旅費	人件費・謝金	その他	計		
合計	563,000	2,301,000	185,000	251,000	3,300,000	990,000	4,290,000
令和 3年度	270,000	390,000	40,000	0	700,000	210,000	910,000
令和 4年度	158,000	1,594,000	145,000	103,000	2,000,000	600,000	2,600,000
令和 5年度	135,000	317,000	0	148,000	600,000	180,000	780,000
令和 6年度	0	0	0	0	0	0	0
令和 7年度	0	0	0	0	0	0	0
令和 8年度	0	0	0	0	0	0	0



## 7. 研究の概要

現在、日本で進められている教育改革において、児童・生徒・学生たちに求められる能力の筆頭に論理的記述力が挙げられており、これらの根幹を成すものとして国語力の重要性に注目が集まっている。しかし、国語力と論理的記述力とは必ずしも一致せず、教科を限定して育成するものではない。一方、論理的記述力の育成で世界的に定評があるのはフランスにおける「哲学」教育である。

そこで、本研究では教科国語科に限定せずに教科の枠を超えた領域の研究者グループを組織して、フランスにおける「哲学」教育を参照しつつ、大学入学者に対して論理的記述力を涵養する教育方策を確立するための基礎研究を行う。

## 8. 研究の目的

従来、国語力の育成は、初等中等教育段階での教科国語科における言語表現としての文芸作品の解釈や内在する思考を表現する言語活動等を通して行われてきた。しかし、今般の教育改革で求められている論理的記述力は教科国語科に限定して育成されるものではない。

そこで、我々は論理的記述力の涵養に資するために、日本の高等教育に導入すべき本能力の育成を目指した教育方策を明らかにしようと考えた。その端緒としてこれまで我々が研究を行ってきた日本の国語科教育の蓄積を基盤に、世界に通用する汎用的な論理的記述力を育成する講義、教材及び評価基準を作成し、提案することを目的とする。

## 9. 補助事業期間中の研究実施計画

研究初年度は現状の国語教育と論理的記述力教育の関連性の整理や、フランスにおける哲学教育が記述力育成にどの様に寄与しているかを中心にサーベイし、本研究の基礎固めを行う。これらの基礎整備を終えた後に渡仏し、実際の哲学教育を参観・意見交換することにより哲学教育がどのように論理的記述力育成に貢献しているかを確認する。なお、この度のCOVID-19の動向を考えると、研究開始初年度に渡仏することは困難を伴うと考えており、その点からも第2年度の渡仏計画は最適と考えている。最終年度は2年間に蓄積した知見から哲学教育を参照とした論理的記述力育成の方策を提案・試行し報告書にまとめ、また関連する学会で発表して同じテーマを持つ研究者と意見交換を行い今後の方針を定める。

本研究を遂行するためのより具体的な計画は以下の通りである。

<2021年度> 現状の日本における国語教育、および論理的記述力教育に関する情報・知見をサーベイする。フランスにおける哲学教育に精通している日本の教員に対して、論理的記述力教育の目的や方法についてインタビュー調査を行い、翌年度の訪問時の基礎情報とする。

<2022年度> フランスの高校・大学における哲学教育を参観すると共に意見交換を行い、論理的記述力教育の実際を把握する。日本での実践に向けて教育方策を模索し、試行・評価する。「汎用的な論理的記述力」の育成に資する題材や授業方法を立案する。

<2023年度> 高校教員や興味ある研究者を招いてワークショップを開催し本研究課題を通して得られた知見を公表し評価してもらう。「汎用的な論理的記述力」の育成に資する講義方策やノウハウを取りまとめた報告書を作成し関連学会で発表するとともに今後の研究の資料とする。

## 10. キーワード

哲学教育

国語教育

フランス

## 11. 主要な物品の内訳（1品又は1組若しくは1式の価格が50万円以上のもの）

品名	仕様（製造会社名・型）	数量	単価（円）	金額（円）	納入予定時期
					年 月
					年 月
					年 月
					年 月
					年 月
					年 月
					年 月
					年 月